

基本情報

	受付日	令和 3年 1月 20日	受付者	加藤 一
利用者名	申斐 富士夫 <small>か い ふ じ お う</small>	性別	男	生年月日
				昭和 17年 8月 20日 (80歳)
住所	山梨県A市〇〇町1-2-3		TEL	055-000-0000
主 訴	<p>〔相談経路〕 昨年 12月 16日、長男の嫁が介護保険新規申請。 本年 1月 20日、嫁から当事業所へ要介護認定の結果が届いたと電話相談が入る。</p> <p>〔本人・家族の要望〕 本人：何とか良くなりたくてリハビリを頑張っている。退院してからもリハビリを続けて、もっと良くなって仕事に復帰したい。 長男の嫁：昨年 11月に自宅で脳梗塞を発症しB病院に入院。治療を受けて 12月初めにCリハビリテーション病院にリハビリ目的で転院した。左片麻痺が残っていて病室は車いすで移動しているが、リハビリでは 4点杖歩行や平行棒での歩行訓練をしている。介護申請はしてあり要介護3の認定が出た。1月中の退院に向けて検討しているが、退院後もリハビリを続けたり、自宅でお風呂に入ったりしたいと考えている。</p>			
生活歴・生活状況	<p>〔生活歴〕 E市出身。工業高校を卒業後建設会社に就職。24歳で結婚し 27歳の時に長男、30歳の時に長女が生まれた。35歳で建設資材販売会社を立ち上げ、従業員を 2人雇っていた。41歳の時に妻が病気で死去。以後会社を切り盛りしながら家事全般をこなし、当時中学生の長男と小学生の長女を男手一つで育てた。長男は大学卒業後に本人の会社に就職。現在は後継ぎ、妻と二人で経営している。入院前は会社兼自宅で一人暮らしをしていたが入院中に改築し、退院後は長男夫婦が同居することになっている。野球が大好きで、若い頃は野球チームに所属し選手として活躍した。選手を辞めてからは審判員として高校野球の県大会の試合を裁いたこともあった。長男は甲子園出場経験があり、本人にとっては自慢の息子であるとのこと。</p>		<p style="text-align: center;">昭和 58年 死亡</p> <p style="text-align: center;">退院後本人宅で同居予定</p> <p style="text-align: center;">隣市在住</p>	
現病歴・既往歴等	<p>〔現病歴〕 塞栓性脳梗塞にて入院 (R2. 11. 16~R2. 12. 4) 本態性高血圧症 (40代~)</p>		<p>〔主治医〕 B病院 D医師 B病院 D医師</p>	
	<p>〔既往歴〕 下肢静脈血栓症 (H15. 8)</p>		<p>〔服薬情報〕 ランソプラゾール 15mg 腸溶性口腔内崩壊錠 1T ワルファリンカリウム錠 2.5T ニフェジピン 20mg 徐放 CR錠「トーワ」 2T アジルサルタン錠 2T カリジノゲナーゼ錠 1T</p>	

日常生活自立度	障害高齢者の日常生活自立度	B1	認知症高齢者の日常生活自立度	I
認定情報	要介護3（令和2年12月16日～令和3年12月31日） 介護保険負担割合：1割		認定日	令和3年1月14日
アセスメント理由	初回・更新・区分変更・その他（ ）			
他法関係情報	【医療保険の種類：後期高齢】 【年金の種類：国民年金】 【生活保護受給 有・無】 【障害者関係手帳 無・有（身体、知的、精神） 級】 取得年月日 【難病認定 無】			
現在利用しているサービス	なし (フォーマル・インフォーマルを含めて)			